

2020年9月8日

徳島市長 内藤 佐和子 様
徳島市教育委員会 教育長 松本 賢治 様

子どもと教育・くらしを守る徳島県教職員の会 徳島市ブロック
代表 小池 清

住所 徳島市川内町鶴島115 黄金ビル1階 徳島労連事務所内
電話 090-9779-6166

「100人アンケート」に基づく 新型コロナウイルス感染症に関わる緊急要望書

教育条件整備等における日頃のご尽力に、心から敬意を表します。

さて、徳島県教職員の会・徳島市ブロックは、新型コロナウイルス感染症が広がり、学校現場に多大な影響を及ぼしている状況下の7月末から8月にかけて、徳島市内小学校教職員100人余りを対象に「新型コロナウイルス感染症問題に関わる要求アンケート」を実施しました。その結果から、教職員が、感染防止と学力保障の両立という大変困難な課題に身を粉にして取り組んでいる実態が明らかになりました。同時に、教職員や子どもたちの頑張りににも限界があり、早急に行政の対応が求められている事柄が明確になりました。

そこで、従来の教育予算の枠を越え、徳島市行政全体で教育現場を支え、ゆきとどいた教育を実現していくという気構えで、下記の事項を実現してくださるよう要望いたします。

要望事項

(1) 「3密」を避けるために、少人数学級と教職員の増員を (94%の教職員の声)

現在の学級規模では、「3密」を回避することは不可能に近いといえます。「クラスの人数が多すぎる」という教職員の声に応え、学校でのクラスターを発生させないためにも、ゆきとどいた教育を進めるためにも、30人以下学級、できれば20人程度の学級を、国や県に求め、早期に実現することが必要です。

当面の緊急課題として、市独自の予算で下記のことを実現していくことを要望します。

下記の優先順位で教員を加配して少人数学級・少人数授業が実施できるようにすること。

- ① 35人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質36人以上の学級
- ② 35人学級
- ③ 34人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質35人以上の学級
- ④ 34人学級

- ⑤ 33人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質34人以上の学級
- ⑥ 33人学級の1・2年生
- ⑦ 32人学級の1・2年生で特別支援の児童が交流授業を受けて実質33人以上の学級

(2) 消毒作業の抜本的な見直しを

～文科省「マニュアル」に基づき、清掃時間外の消毒作業は外部委託に～ (89%の教職員の声)

毎日放課後、教職員は感染防止対策のために消毒作業等を行っていますが、これは教職員にとって大きな負担になっています。「もともと」「教員の仕事ではない」(文科省初等中等教育局財務課長、教育関係者の要望の場での発言、2020.8.7) 消毒作業に精力を使い、教職員の本務が後回しになっている現実があります。

教職員からは、「消毒・トイレ掃除に毎日 40 ～ 50 分はかかっている」「消毒作業は毎日のことなので非常に疲れる。年休も、消毒を人をお願いすることになるので取りづらい」「消毒作業に時間をとられ、退庁時刻が遅くなり、持ち帰る仕事も多くなった」等の声が多数寄せられています。

こうした中、文科省は、「清掃活動とは別に、消毒作業を別途行うことは、感染者が発生した場合でなければ基本的には不要ですが、実施する場合には、極力、教員ではなく、外部人材の活用や業務委託を行うことによって、各学校における教員の負担軽減を図ることが重要です。」(「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～ 2020.8.6Ver.3)」と述べています。

しかし、上記の文科省の新しい「衛生管理マニュアル」が、学校現場へ周知徹底されているとはいえません。そこで、次のことを要望します。

- ① 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～ (2020.8.6Ver.3)」を学校現場に周知徹底すること。
- ② 清掃活動とは別に、消毒作業を別途行う場合は、外部人材の活用や業務委託をすること。

* 参考 「福岡県古賀市では市内 11 の小中学校に消毒作業の専門臨時職員 72」

福岡県古賀市は新型コロナウイルスの感染防止策として、市立小中学校で放課後に消毒作業を行う臨時職員 72 人を採用し、今月 1 日から作業を始めた。雇用は 3 か月間で、感染状況などを見ながら更新する。

市教委によると、臨時休校後に分散登校が始まってから、各校では教職員が消毒作業を行ってきた。しかし、授業の準備や教材研究、会議、研修などの時間を削ることになり、大きな負担になっていたという。

臨時職員の多くは、「学校に協力したい」と申し出た保護者や地域住民ら。児童・生徒が下校した後の 2 時間、教室の机や椅子、手すり、遊具などの消毒を担っている。

舞の里小学校では連日、2 人が作業。野中慎治校長は「教員が児童に向き合うための時間の確保につながり、本当にありがたい」と話している。(ヨミドクター、2020.7.15)

（３） 学校をまたぐ秋の研究大会の中止の決定を （９４％の教職員の声）

徳島市における新型コロナウイルス感染状況は拡大傾向を強め、市中感染ともいえる状況になっています。こうした中での研修・研究会について教職員からは、「（学校をまたぐ）研究授業・研究大会はなくすべきだと思う。非常事態なのだから優先順位をつけて、日常の生活をもっと大切にしてほしい」「大きな研究授業を行う必要のある大会は、早めに中止や延期を決定してほしい」「現場（校内）で子どものことを話し合い、対策を考えることが今一番の研修。研修こそ『新しい生活様式』の中で見直すべきと思う」などの声が寄せられています。

教職員は、新型コロナ対策に追われながらも、例年より少ない授業時数で学習を進めるべく懸命に子どもたちに向き合う日々を過ごしています。こうした時に、午後の授業をカットし、感染拡大が危惧される１１月に学校をまたいだ研究大会が複数予定されていることについて、教職員のみならず、保護者・市民からも、「あり得ない」等といった驚きの声が寄せられています。

感染拡大防止、子どもと向き合う時間確保のために、下記のことを要望します。

新型コロナウイルス禍での学校をまたいだ「研究大会」は中止するか、
文書の配布のみにすること。

（４） 教育現場を支え、ゆきとどいた教育を進めるための教育条件整備を

—— 感染予防に必要な物品の十分な配備を —— （１００％の教職員の声）

学校は今、感染防止対策や熱中症対策に神経を使いつつ、多くの制限がある中で授業の工夫や学校生活の充実に取り組んでいます。しかし、過酷な勤務の中で多くの教職員が疲弊してきています。教職員からは、「心身ともに疲れが蓄積してきており、いっぱいいっぱいである」「非常に疲れている。精神的にも滅入ってしまっていると感じる時がある」「睡眠時間を削って仕事をしているので、慢性的な病気にならないか心配」「今まで以上に一日中忙しい。体調はあまりよくないが、授業を進める必要があるため、休みが取りにくい」等の声が寄せられています。

このような学校現場を支える取り組みが、今、行政に求められています。

そこで、下記の６項目を要望します。

- 特別教室(理科室, 音楽室, 家庭科室等)へのエアコンの設置。
- 養護教諭の複数配置校を臨時的に増やすこと。また、保健室の複数設置か、発熱対応の場所の確保を検討すること。 (９６％の教職員の声)
- 修学旅行キャンセル料の補助。
- 大変密になっているバス通学に対応すること。
- ゆきとどいた教育と担任負担の軽減のために、複数校の兼務でもよいので、英語専任教諭を希望校に配置する。 (９５％の教職員の声)
- 感染症予防に必要な物品(非接触体温計, 予備用マスク, 使い捨て手袋, 消毒液, 薬用石鹸, ペーパータオル, アルコールなど)が十分に配備されているかを把握し、不十分な場合は配備すること。 (１００％の教職員の声)

以上